

卵巣予備能検査:AMH(抗ミュラー管ホルモン)検査

あなたはご自身が何歳まで、妊娠出産が可能だと思いますか？

これから妊娠出産をお考えのご夫婦には、ご自身の『卵巣予備能』を把握したうえで的人生設計をお勧めします。

卵巣予備能を知るには？

AMH(抗ミュラー管ホルモン)を測定することで、卵巣内にどれだけ卵子が残されているかを予測することができます。女性は、卵巣に一生分の卵子を持って生まれ(約200万個)、時間経過とともに大量に減っていきます。思春期には約30万個、無排卵の人でも、ピルを服用している人でも毎月数100個単位で消失し、30代後半には約3万個、40歳では1万個程度、そして平均50歳、1000個前後となれば閉経となります。閉経からさかのぼること10年の妊娠は容易ではありません。

閉経の時期や卵子の減り具合には個人差があります。若くして妊娠能力が低下してしまう人も決して少なくありません。果たしてあなたには、妊娠可能な期間がまだ長く残されているのでしょうか？

AMH(抗ミュラー管ホルモン)は、その残された時間を予測する検査となります。

卵巣老化の兆しに要注意!

卵巣予備能が低下すると、不妊治療への反応が低下し、妊娠効率が上がりにくくなります。実年齢より若く見える人もいれば、老けて見える人もいます。卵巣予備能も、大変個人差の大きいものです。あなたの卵巣に、衰えの兆しはありませんか？卵巣の老化が進みやすい習慣や体質はありませんか？卵巣予備能について警戒すべきチェックポイントを挙げてみます。あてはまる項目がいくつあるか、チェックしてみてください。

卵巣の老化を警戒するチェックポイント

【月経の様子から】

- 月経周期が短いまたは月経周期が短くなってきた(25日以下は要警戒)
- 月経量が減ってきた
- 基礎体温の高い時期が短い
- 月経前に不正出血がある

【治療歴から】

- 排卵誘発剤への反応が悪かった
- 予想よりはやく排卵が終わっていたことがある
- 卵巣の手術をしたことがある(チョコレート嚢腫)
- 流産の経験がある(化学流産:ごく初期の流産も含む)
- FSH(卵胞刺激ホルモン)の値が高いと言われた

【生活習慣から】

- 体重の異常(やせている、肥満である)、過去に大きな増減があった
- 喫煙をしている
- 生活が不規則である、ストレス、疲れがたまっている
- 睡眠不足、不眠症である
- ふだんあまり運動をしない

【体質などから】

- 35歳以上である
- 冷え性である
- 内臓脂肪が多い、メタボ体質である
- 初潮(はじめての月経)が早かった
- 母親の閉経が早かった
- 家族に糖尿病の人がいる

検査料金

AMH(抗ミュラー管ホルモン検査)

7,700円(税込)